

令和8年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立栗葉小学校	校長名	篠 原 充
児童・生徒数	274名	学級数	15学級
		教職員数	22名

1 経営方針（基本理念）

- (1) すべての子どもたちの学習権を保障する学校づくりを目指し、全教職員で合意形成を図る
- (2) 授業改善を通して、教職員の質的向上及び同僚性を構築する
- (3) 保護者や地域住民と連携し、学校参画を促した地域の学校づくりを推進するとともに、すべての子どもと大人が自分がつくる自分の学校づくりを行い続ける

2 めざす学校像

学校教育目標 **「地域とともに意欲的に学び合い、創造的に活動する栗葉っ子の育成」**

<めざす子ども像>

- ・わからなさを大切にする子
- ・間違いを大切にする子
- ・互いに聴き合える子
- ・ちがいを認め合う子
- ・想像力を豊かにする子

<めざす教師像>

- ・子どもの思いに寄り添う教師
- ・あたたかいまなざしで子どもの学びを見る教師
- ・子どもと共に学ぶ教師
- ・個を尊重し、チームで動く教師

3 現状と課題

- (1) 「自らの考えをもち、根拠をもとに話し合って学びを深める子の育成」を研究主題にして校内研修に取り組んでいる。また、落ち着いて学習できるようになってきた子どもたちに、基礎学力の定着と自主的な家庭学習の習慣化を目指している。
- (2) 仲間を思いやり、助け合える子どもたちの姿がある反面、人との関わりに課題が見られる。人とのつながりを大切にし、いじめを生みださない人間関係づくりや、多様な見方や考え方を理解し共感できるような仲間づくりを進めて行く必要がある。
- (3) 地域に根ざしたさまざまな活動により、保護者や地域住民との信頼関係を深めている。
- (4) 元気に明るく学校生活を送っている児童の姿が多く見られるが、心の不安定さを有する児童への支援が必要である。
- (5) 児童が安全で安心して生活できる教育環境の確保と交通事故ゼロの取り組みを進めなくてはならない。
- (6) 授業改善に向けて、教職員が主体的に学び合う関係づくりができていない。しかし一方で、多忙化も進んでおり、全体のバランスを見ながら取組を精選し、過重労働を減らさなくてはならない。

4 重点目標

- (1) 教職員の授業改善を通じた資質向上を図る。
- (2) 児童どうしが聴き合うことを大切にした学びを推進する。
- (3) 人権尊重の意識を高め、互いを認め合い、つながりを大切にする仲間づくりを進める。
- (4) 学校運営協議会と協働し、児童・教職員・家庭・地域住民との信頼関係の構築に努めるとともに、PDCAサイクルに基づく学校改革を進める。
- (5) 家庭・地域住民と連携し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、安全・安心な学校生活を送ることができる教育環境づくりを推進する。
- (6) 教職員の働き方改革の推進を図る。

5 具体的な行動計画

- (1) 教職員の授業改善を通じた資質向上を図る。
 - ① 本校の研修の基本理念を全教職員で合意形成する。
 - ② 子どもの学びを中心にした教職員間の対話を行う。
 - ③ チーム栗葉で授業改善に取り組むことで、頼る・頼られる教職員の同僚性を構築する。「人の力を活用する力」を育む。
 - ④ 学んだことの定着を図るとともに、児童が夢中になる授業に取り組む。

- ⑤ 自らの授業をひらくことで、授業の質的改善に努める。
- ⑥ 外部講師の招聘し、公開授業研修会の積極的参加を通して、見識を深める。
- ⑦ 全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック等の結果を分析し、指導に活かす。

(2) 児童どうしが聴き合うことを大切にしたい学びを推進する。

- ① 聴き合う関係づくりに努める。
- ② わからないことや間違ったこと等、子どもに寄り添い合うことで、誰も独りにしない。
- ③ ペア学習やグループ学習による対話的な学びを行う。
- ④ 自主的に取り組む家庭学等習等の取組を通して、学力向上及び学力保障を図る。
- ⑤ 久居西中学校区小中一貫教育の推進を通して、保幼小中の連続的な学びに取り組む。

(3) 人権尊重の意識を高め、互いを認め合い、つながりを大切にする仲間づくりを進める。

- ① 日頃の対話や家庭訪問等を通して、児童一人ひとりへの理解を深めるとともに、保護者等とのつながりを深める。
- ② 児童を丁寧なみていくこと、児童と教師との信頼関係づくり、児童どうしがつながることに努める。
- ③ 仲間とのつながりが実感できる体験を積み重ね、一人ひとりが認められ、いじめを許さない仲間づくりに努める。
- ④ 出会い学習を通して、さまざまな人々の生き方や考え方に触れる機会に取り組む。
- ⑤ 合理的配慮に基づく特別支援教育についての研鑽を深める。

(4) 学校運営協議会と協働し、児童・教職員・家庭・地域住民との信頼関係の構築に努めるとともに、PDCA サイクルに基づく学校改革を進める

- ① 報告・連絡・相談を密にし、教職員間での対話を大切にしたい情報共有に努める。
- ② 建設的な意見については真摯に傾聴するとともに、状況に応じて複数で対応する。
- ③ 授業参観、学級懇談会、個別懇談会、地区懇談会、学級通信・学校だより、HP等を活用することで、学校教育活動の取り組みを発信し、保護者や地域住民から信頼される学校づくりに努める。
- ④ 学校自己評価、児童アンケート、保護者アンケートを活用して、年間行事計画等の見直しを図り、学校教育活動についてPDCA サイクルによって、持続可能な学校改革につなげる。不登校ゼロを目指す。

(5) 家庭・地域住民と連携し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、安全・安心な学校生活を送ることができる教育環境づくりを推進する。

- ① 「あいさつ運動」、「メディアコントロールデー」に取り組み、生活習慣の向上を促す。
- ② 「安全安心パトロールの会」の協力等により、安全に対する意識を向上させ、交通事故ゼロを目指す。
- ③ 「栗っ子クリーン活動」等の活動を通して、地域住民との交流を深める。
- ④ 家庭・地域住民（学校運営協議会委員を含む）を学校教育活動へのサポーターとして参画を求める。

(6) 教職員の働き方改革の推進を図る。

- ① 行事等の反省をもとに、学期ごとに、実施が改善して実施が廃止の検討を行い、精選を図る。
- ② 定時退校日を毎週金曜日に設定し、定時退校できた教職員の割合80%以上を目指す。
- ③ 外部講師を招聘する授業研究会等を除き、放課後に開催される会議等の原則60分以内終了の割合80%を目指し、会議等の精選及び効率化を図る。
- ④ 1人あたりの月平均30時間以内の時間外労働時間を目指す。また、1人あたり前年度比年間3日増の年間休暇取得を目指す。
- ⑤ 年360時間及び月45時間を超える時間外労働者の延べ数0を目指す。